

IPM実践指標(いちご)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
共通項目	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病虫害雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点			
	土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすき込みによる土づくりを行い、病気にかかりにくい強健な作物栽培に心がける。	1点			
	排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備する等の改善を行う。	1点			
	採苗時期	適期に採苗を行い、極端な早植はしない。	1点			
	栽植密度	適正な栽植密度とし、風通しを良くする。	1点			
	病虫害の発生源除去	被害葉、被害果実、古葉は早めに除去し、園外で処理する。	1点			
	土壌中の水分管理	極端な乾燥や加湿にならないよう、必要量を適宜灌水する。	1点			
	適正な換気	施設内が加湿とならないように適正な換気を行う。	1点			
	飛来性害虫の施設内への侵入防止	目合い1mm程度の防虫ネットを展張する。	1点			
	発生予察情報等の活用	病虫害防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病虫害の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点			
		フェロモントラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、施用時期の判断をする。	1点			
		近隣の作物や畦畔の雑草での病虫害の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点			
	作物の観察	病虫害の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点			
	土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前後で最低1回はクモ、寄生蜂等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	2点			
	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点			
		定植時に粒剤を処理する等、栽培初期の薬剤防除を徹底する。	1点			
		農薬の使用にあたってはローテーションを組み、抵抗性がつかないよう、同系統の農薬使用は避ける。	1点			
		天敵への影響の少ない選択性殺虫剤(ピメロジン剤、気門封鎖剤、ピリダリル剤等)を利用する。	1点			
		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1点			
	作業日誌	病虫害・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点			
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点			
個別項目	炭疽病・葉枯性炭疽病	炭疽病罹病株を持ち込まないよう親株の予防を徹底する。	1点			
		高床式育苗や土耕でのシルバーマルチ化を行う。	1点			
		雨よけハウスを利用する。	1点			
		株元灌水等を行い、胞子飛散を抑制する。	1点			
	灰色かび病	パチルス・ズブチリス剤を定期的に散布する。	1点			

IPM実践指標(いちご)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
個別項目	うどんこ病	共通項目の励行(特に病原菌を持ち込まないよう, サンヨール乳剤によるポット苗浸漬を行う。)	1点			
	萎黄病	無病親株の選定を行う。	1点			
		土壌還元消毒, 熱水消毒等の土壌消毒を行う。	1点			
	ハダニ類	ミヤコカブリダニ, チリカブリダニを放飼する。	1点			
	アザミウマ類	共通項目の励行(特に, 飛来成虫を早期に発見し, 効果的な薬剤を散布する。)	1点			
		ククメリスカブリダニ, スワルスキーカブリダニを放飼する。	1点			
		粘着テープ・粘着板の設置。	1点			
	イチゴメセンチュウ	共通項目の励行(特に, 被害株を早期に発見し, 効果的な薬剤を散布する。)	1点			
	アブラムシ類	バンカープラントを設置し, コレマンアブラバチを放飼する。	1点			
	ハスモンヨトウ	共通項目の励行(特に, 若齢幼虫を早期に発見し, 効果的な薬剤を散布する。)	1点			
		生物農薬(BT剤等)を利用する。	1点			
			合計 点数			
			対象 IPM計			
			評価結果			